



西合志南小学校だより

西南小の風

【校訓】明るく かしく たくましく

学校教育目標：主体性と協働性を育み、夢の実現に挑戦する児童の育成



令和7年10月27日

第9号

文責 西村 英一

後期からの重点取組、「とうふあい」！

10月10日の前期終業式では、2、4、6年生の代表が前期の振り返りと後期に向けての抱負を発表しました。発表を聞いて、子供たちの成長を感じ、とてもうれしくなりました。また、後期もさらに成長していこうという思いを膨らませていることも伝わってきて、頼もしく感じました。

ところで後期始業式では、生徒指導担当が子供たちに「とうふあい」（右イラスト参照）に取り組もうと呼びかけを行いました。

最近、子供たちから「おはようございます」に続けて「涼しくなりましたね」、「さようなら」に続けて「今日も給食、おいしかったです」といった「プラス1」の言葉を聞くようになってきています。

後期も子供たちが充実した毎日を送ることができるように教育活動に取り組んでいきます。後期もよろしくお願いします。

スクールサポーターからのお話

10月21日、不審者対策の避難訓練を行いました。

訓練後の講話には、講師としてスクールサポーター（刑事事件などに詳しく、学校に助言をくださる方）をお招きしました。講師の方は、自分の命を守るための行動ができる力を身につけてほしいと言われました。また、メディアに関連するトラブルや事件（ネット依存やネット詐欺被害）に関する注意喚起の話もありました。極端な例として、ネット依存となると「睡眠時間が短くなる」「ネットを利用するための時間を作るため、食事のかわりにお菓子だけになってしまう」「イライラしがちになり、感情のコントロールができなくなる」といった事案の紹介がありました。さらに、「偽サイトによる詐欺に遭わないために、知らないサイトにアクセスする際は、家の人に相談をするように！」と言われました。講話終了後、スクールサポーターの方は、「報道されているメディアに関連するトラブルや事件等は、ほんの一部に過ぎません。」と言ってお帰りになりました。

「非認知能力」を高める関わり方3

「非認知能力」を高めることに有効な「傾聴」について紹介します。参考にしてください。

①楽しかったこと等を「オウム返し（相手が言ったことを繰り返して話すこと）する」→安心感を得ます。

「オウム返し」を子供さんにすると、「自分の話を聴いてくれている」「自分のことをちゃんと理解してくれている」と感じ、安心感を得ることができるそうです。子供さんが「計算が速くできるようになってきたんだ。」と話してきたら、「そうなんだ。計算が速くなったんだ。」等と返してみてください。子供さんの脳内に、幸福感も広がるそうです。

②「小さな成功体験を振り返る」→自己肯定感が育まれるそうです。

1回の大きな成功体験よりも毎日の「小さな成功体験」を感じることで、幸福度が上がるそうです。幸福度が上がると、創造性も飛躍的に高まるそうです。「九九を間違えずに言えた」「挨拶を言えた」「朝早く起きた」「授業で発表できた」「給食が好きな献立だった」等々。寝る前や食事の時の数分でいいので、子供さんの小さな成功体験に傾聴してみてください。

③幸せな記憶が自己肯定感をあげる。→プラスな記憶が自信につながる。

子供たちは大人以上にマイナスな面に気持ちがいきがちです。しかし、幸せを感じていた時の記憶が呼び起こされると、気持ちが前向きになりやすいそうです。そこで効果的なのが、過去の幸せな出来事を思い出す写真（電子データも含みます）。楽しく懐かしい写真を見ながら、子供さんと思い出話をするのもいいかもしれません。

参考文献：非認知能力を育てる17の習慣（著者 西剛志氏 あさ出版）

